

30年1月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 1月4日～ 30年1月15日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/1月	2月	3月
仕入動向	国産材製材品	△ 37.5	△ 31.3	0.0
	外材製材品	△ 43.8	△ 50.0	△ 12.5
	構造用集成材	△ 35.7	△ 57.1	△ 21.4
消費動向	国産材製材品	△ 37.5	△ 43.8	△ 12.5
	外材製材品	△ 37.5	△ 50.0	△ 12.5
	構造用集成材	△ 35.7	△ 35.7	△ 14.3
在庫動向	国産材製材品	△ 37.5	△ 18.8	△ 12.5
	外材製材品	△ 37.5	△ 25.0	△ 6.3
	構造用集成材	△ 33.3	△ 16.7	0.0

・国産材製材品の仕入動向は1月、2月の減少から3月は横ばいに。外材製材品及び構造用集成材は3カ月連続減少。

・消費動向は国産材製材品、外材製材品、構造用集成材とも3カ月連続減少。

・国産材及び外材製材品の在庫動向は3カ月連続減少。構造用集成材は1月、2月の減少から3月は横ばいに。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	30/1月	2月	3月
受注	△ 43.8	△ 43.8	△ 18.8
加工	△ 37.5	△ 43.8	△ 18.8
受注残	△ 25.0	△ 43.8	△ 25.0

・プレカット工場の受注動向は受注、加工、受注残とも3カ月連続減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・仕入は動向は全てにおいて価格変動あり。高値はどこまで。消費は不需要期なれど最小限の仕事あり。雪が少ない影響か。在庫は総体量を増やさないように注意。
- ・当月、翌月は仕入を少なくするが、翌々月受注が増加した時の仕入が難しい。国産材製材品と構造用集成材の動向はつかみやすい。反面、外材製材品の消費動向は読みづらいところ。仕入と消費から在庫は減らしていきたいところだが、横ばいが精一杯と思われる。
- ・時期的に仕事が減るため仕入量、消費量とも減る。
- ・仕入の値上り続く。

(受注動向)

- ・受注、出荷微増なるも加工量は微減。
- ・今年の冬も昨年並みの受注数はあると思われる。
- ・集成材は在庫を置かない。国産材も外材も受注に応じて在庫する。
- ・年明け以降落ちてきている。